

今年度もヤクルトホールにて開催します！
平成31年3月7日(木)・8日(金)

～世界結核デー記念～

第24回 国際結核セミナー



平成31年3月7日(木) 13:30-18:30

Theme 多剤耐性結核の世界的な現状

この数年で、多剤耐性結核の新薬が登場し治療方法に変化が訪れた。また海外でもWHOは9か月の短期療法を推奨し治療方式にも変化がみられている。今年度は多剤耐性結核の近年の変化に焦点を当て、世界保健機関 西太平洋地域事務局 結核・ハンセン病対策課 課長のタヒッド・イスラム先生をお招きし、多剤耐性結核のWHOでの動きや、実際の現場での活動に関して特別講演をお願いしました。シンポジウムでは、治療や副作用、薬剤感受性検査といった臨床的な内容から、病院や保健所、医療ソーシャルワーカーの視点を、実例を交えながら報告をいただく予定です。

- 13:30～15:35 特別講演：多剤耐性結核の世界的な現状と実際の対策活動例
講師：タヒッド・イスラム（医官）
（世界保健機関 西太平洋地域事務局 結核・ハンセン病対策課 課長）
- 15:55～18:10 シンポジウム「新薬発売後の国内の多剤耐性結核治療の変化」



平成30年度 全国結核対策推進会議

平成31年3月8日(金) 9:15-15:15

Theme 低蔓延化を見据えた地域連携の推進と外国出生者への対応

外国出生結核患者は年々増加しており、新登録結核患者の9.1%を占め、特に20代では62.9%と割合が高くなっています。外国出生者の受け入れ制度が新しくなり、今後においては感染症対応、特に結核発病時の対応に多様な連携と支援が求められます。講演では、グローバルな視点での連携強化、早期発見の観点から入国前後の健診制度や地域連携を取り上げました。午後のシンポジウムでは、在日外国出生者の結核対応を考える機会として様々な機関の方々から健康管理の実際と課題について報告いただき連携を深める機会にしたいと考えています。

- 9:15～11:40 講演：4題
- 11:45～11:55 ポスター紹介
- 13:15～15:15 シンポジウム「在日外国出生者の結核対応～多様な連携と支援～」



参加費は各¥6,000(税込)です。
詳細は、改めて掲載いたします。